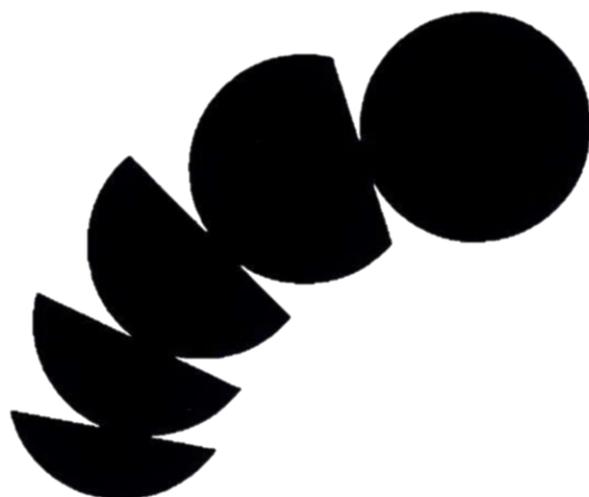


# 第31回テニス学会

## The 31 CONFERENCE OF TENNIS SCIENCE

期 日 令和元年6月1日(土)～6月2日(日)

会 場 びわこ成蹊スポーツ大学



JAPAN SOCIETY  
ON TENNIS SCIENCE

主 催 日本テニス学会  
後 援 びわこ成蹊スポーツ大学  
協 力 株式会社ダンロップスポーツマーケティング  
医療法人かおり会  
株式会社エイチ・アイ・エス  
株式会社スポーツフィールド  
株式会社ノアインドアステージ  
ミズノ株式会社  
ファイテン株式会社  
株式会社大修館書店  
株式会社古川テニス企画  
株式会社文成印刷  
株式会社ワコール  
ひばりテニススクール  
ウインザーラケットショップ梅田店  
株式会社スポーツショップキムラ  
有限会社ラケットパル  
キリンビバレッジ株式会社

# 大会日程

## 5月31日(金)

18:00-19:30 運営委員会 ベーコンラボ京都駅

## 6月1日(土)

9:00- 受付開始 中央棟2階エレベーター前  
9:45-10:00 開会挨拶 中央棟2階Z201・202教室  
10:10-12:15 一般研究(口頭発表①) 中央棟2階Z201・202教室  
一般研究(口頭発表②) 中央棟2階Z201・202教室  
12:15-12:45 会場移動 ポスター閲覧 中央棟3階会議室A・B  
12:45-13:45 ランチブレイク  
13:45-14:45 一般研究(ポスター発表①、②) 中央棟3階会議室A・B  
14:55-16:25 特別講演1 中央棟2階Z201・202教室  
16:30-17:30 フリーディスカッション 中央棟2階Z201・202教室  
17:30-19:00 懇親会 中央棟4階食堂(Lake Crest)

## 6月2日(日)

9:00- 受付開始 中央棟2階エレベーター前  
9:30-10:50 特別講演2 中央棟2階Z201・202教室  
11:00-12:30 パネルディスカッション 中央棟2階Z201・202教室  
12:30-14:00 総会 中央棟2階Z201・202教室  
ランチブレイク  
14:00-16:05 一般研究(口頭発表③) 中央棟2階Z201・202教室  
一般研究(口頭発表④) 中央棟2階Z201・202教室  
16:20-18:00 テニス大会 テニス大会会場  
オンコート研究実践 テニス大会会場  
18:00-18:05 表彰式 テニス大会会場  
18:05-18:10 閉会挨拶 テニス大会会場

※雨天の場合テニス大会は中止になります。

※雨天の場合オンコートセミナーはメインアリーナ(室内)で行います。

# 参加される方へのお知らせ

## 1. 学会大会参加の申込み

今大会への参加は、事前申込み制になっています。また、学会大会期間中の当日参加申込みも可能です。

《学会大会参加費》

事前申込み	正会員：5,000 円    学生正会員：3,000 円 非会員：7,000 円    非会員学生：5,000 円
当日申込み	正会員：6,000 円    学生正会員：4,000 円 非会員：8,000 円    非会員学生：6,000 円
テニス大会（小山秀哉杯）参加費	無 料
懇親会 ※料理等の都合上、可能な限り事前申込み にご協力ください。	会員、非会員問わず 事前申込み：一般 3,000 円    学生 1,000 円 当日申込み：一般 4,000 円    学生 2,000 円

## 2. 受付

大会 1 日目：6/1（土） 9:00 受付開始 於：びわこ成蹊スポーツ大学中央棟 2F	学会大会参加事前申込みの方、ならびに学会大会・懇親会当日参加申込みの方の受付を行います。また、テニス大会（小山秀哉杯）への参加受付を行います。
大会 2 日目：6/2（日） 9:00 受付開始 於：びわこ成蹊スポーツ大学中央棟 2F	学会大会参加事前申込みの方、ならびに学会大会当日参加申込みの方の受付を行います。また、テニス大会（小山秀哉杯）への参加受付を行います。

当日参加申込みの方は、受付時に、参加費等のお支払いをお願いいたします。当日、日本テニス学会に入会された方は、会員参加費にてご参加いただけます。大会参加事前申込みをされた方は、出席をお届けください。また受付にて全員の方に名札をお渡ししますので、お名前をご記入の上、見やすいところにお付けください。

## 3. テニス大会（小山秀哉杯）

6/2（日）に学会員の交流と親睦を目的としてダブルスを中心にテニス大会を開催します。上位入賞者には景品を用意しております。開始時刻の 10 分前までにテニスコートにお集まりください。テニスコートはアウトドアで、サーフェスはハードコートです（場所は 4 ページをご参照ください、更衣はテニスコート脇の更衣室をご利用ください）。なお、試合参加中に気分が悪くなった場合には、早急にお近くのスタッフにお伝えください。また、大会中に発生した事故および傷害につきましては自己責任とさせていただきます。休息や水分補給などは各自でこまめにお取りください。

**※雨天の場合、テニス大会は中止となります。**

#### 4. 懇親会

6/1（土）には、参加された方の親睦のために懇親会を開催します。当日の参加も可能です。受付にてお申込みください。

#### 5. 昼食

昼食は各自でご準備ください。1日目の土曜日は学内のコンビニエンスストアが8:45から15:00で営業しております（2日目日曜日は営業予定なし）。その他コンビニエンスストアについては、最寄駅や大学近くにはございません（大学から徒歩片道15分のところに1件あり）。また近くに喫茶店がいくつかありますが徒歩で片道5から15分程度要します。

#### 6. 宿泊

宿泊は各自でご予約ください。

#### 7. 公認指導者更新のための研修ポイント

学会に参加されますと日本テニス協会「公認指導者更新のための研修ポイント」、日本プロテニス協会「JPTAポイント」が付与される予定です（現在申請中）。ポイント付与をご希望の方は受付時に「研修・実習活動実績証」（日本テニス協会）カードをご提出ください。カードの返却は、提出日の夕方となります。プロテニス協会のポイント付与は受付時に**会員番号・氏名・所属**を記入して頂き、学会からプロテニス協会に申請を行います。また、個人からプロテニス協会に申請をして頂くことも可能です。

#### 8. 研究奨励賞

研究奨励賞は、テニス学会において優れた研究発表を行った若手研究者・指導者に、今後さらにその大成を期し、研究・指導振興の一助となることを目的として設置されたものです。選考対象は、第31回テニス学会一般研究発表者のうち、年齢が35歳以下の発表者です。運営委員による選考を行い、受賞者には表彰状と金一封の進呈があります。表彰式で授与を行います。

<学会大会に関するお問い合わせ>

第31回テニス学会大会事務局

びわこ成蹊スポーツ大学 植田実 北村哲

〒520-0503 滋賀県大津市北比良 1204

TEL：072-596-8470

E-mail: [conf-31@jsts.cc](mailto:conf-31@jsts.cc)

# 大会プログラム

大会前日：5月31日（金曜日）

---

18：00－19：30 運営委員会

ベーコンラボ京都

1日目：6月1日（土曜日）

---

9：00－ 受付（学会大会・懇親会・テニス大会）

中央棟2階エレベーター前

開会挨拶 司会：北村哲（びわこ成蹊スポーツ大学）

中央棟2階Z201・202教室

9：45－9：50 会長挨拶 佐藤 雅幸（テニス学会会長）

9：50－10：00 皆様へのお願い 北村哲（びわこ成蹊スポーツ大学・第31回テニス学会事務局）

一般研究発表 口頭発表① 座長：村松憲（慶應義塾大学）

中央棟2階Z201・Z202教室

10：10－10：25 演題番号 O1-1：

「センターサーブにおける打点高と許容打ち出し角度の関係」

○村田宗紀（鹿屋体育大学）

10：25－10：40 演題番号 O1-2：

「トスの正確さとサーブ着地点との関係」

○弓野憲一（弓野教育研究所）

10：40－10：55 演題番号 O1-3：

「打球データと動作評価に基づいたサービスの課題の設定：インパクトに着目して」

○村上俊祐（鹿屋体育大学），柏木涼吾（鹿屋体育大学大学院），

岩永信哉（鹿屋体育大学大学院），高橋仁大（鹿屋体育大学）

10：55－11：10 演題番号 O1-4：

「テニスサーブ動作時における腱板損傷についての検討」

○赤澤淳（明治国際医療大学）

一般研究発表 口頭発表② 座長：武田守弘（広島文化学園大学）

中央棟2階Z201・Z202教室

11：15－11：30 演題番号 O2-1：

「高校男子テニス部を対象とした栄養サポートに関する報告」

○山口美佐（社団法人 Nutrition Support Association），鈴木隆弘（早稲田大学大学院）

11：30－11：45 演題番号 O2-2：

「女子プロテニスプレーヤーにおける facial width-to-height ratio と競技パフォーマンスの関係」

○石原暢（日本学術振興会，玉川大学脳科学研究所），黒田裕太（北翔大学）

11：45－12：00 演題番号 O2-3：

「非スタジアム型テニス大会の観戦動機と経済的評価に関する研究：

仮想評価法による大会観戦への支払意思額の推計」

○古川雅一（東京大学大学院情報学環・学際情報学府）

12：00－12：15 演題番号 O2-4：

「製品満足，ブランドエクイティに着目したテニスラケットのブランド・ロイヤルティ

形成メカニズム」

○山本達三（びわこ成蹊スポーツ大学），北村哲（びわこ成蹊スポーツ大学），

渡辺君夫（株式会社京滋マツダ）

### 会場移動 ポスター閲覧

12：15－12：45 中央棟2階 → 中央棟3階 AB 会議室

### ランチブレイク

12：45－13：45 ランチブレイク

### 一般研究発表 ポスター発表① 座長：黒田裕太（北翔大学）

中央棟3階会議室 A・B

13：45－13：48 演題番号 P1：

「大学生を対象としたテニス授業における技術向上に関する昇級基準設定型授業の実践報告」

○武田守弘（広島文化学園大学）

13：48－13：51 演題番号 P2：

「大学体育におけるテニス受講生のエラーの原因の因子構造について」

○平田大輔（専修大学），柴原健太郎（北九州市立大学），出井章雅（駒澤大学），

佐藤周平（仙台大学），村上貴聡（東京理科大学），佐藤雅幸（専修大学）

13：51－13：54 演題番号 P3：

「ソフトテニスの授業における技術指導についての一考察：空間の攻防と視線に着目して」

○篠原 哲也（天理大学大学院）

13：54－13：57 演題番号 P4：

「小学校体育授業へのテニス導入：

小学校の体育授業でのテニス指導に向けて必要な指導と評価方法の実践報告」

○石原保彦（Web & Document Solution あどあど）

13：57－14：00 演題番号 P5：

「地域テニスクラブのジュニア育成を目的としたサポートシステムに関する事例報告」

○山口寛基（京都東山テニスクラブ，同志社大学スポーツ健康科学部）

14：00－14：03 演題番号 P6：

「現代テニスにおける選手－コーチ関係の形態について」

○植田実（びわこ成蹊スポーツ大学），北村哲（びわこ成蹊スポーツ大学）

一般研究発表 ポスター発表② 座長：村上俊佑（鹿屋体育大学） 中央棟 3 階会議室 A・B

14：03－14：06 演題番号 P7：

「大学男子テニス選手のサービスのスピードと回転数の関係：

重要なカウントでの 1st サービスの特徴について」

○高橋仁大（鹿屋体育大学），柏木涼吾（鹿屋体育大学大学院），

岩永信哉（鹿屋体育大学大学院），村上俊佑（鹿屋体育大学）

14：06－14：09 演題番号 P8：

「正確なトス練習の一方法」

○弓野憲一（弓野教育研究所）

14：09－14：12 演題番号 P9：

「大学女子テニス選手におけるジャンプトレーニングがサーブのボール速度に及ぼす影響」

○鈴木隆弘（早稲田大学大学院）

14：12－14：15 演題番号 P10：

「移動を伴うフォアハンドストローク動作の事例報告」

○吹上新悟（新潟大学大学院），牛山幸彦（新潟大学），大庭昌昭（新潟大学）

14：15－14：18 演題番号 P11：

「ソフトテニスにおけるモチベーションビデオの視聴効果の検討」

○佐久間智央（日本大学），高橋正則（日本大学）

14：18－14：21 演題番号 P12：

「ウェアラブルセンサを用いた大学テニス選手の試合時における活動強度の評価」

○丸谷賢弘（大阪体育大学大学院），近田 彰治（大阪大学），川上諒（大阪体育大学スポーツ局），

宮地弘太郎（大阪体育大学），中田研（大阪大学），梅林薫（大阪体育大学）

14：21－14：24 演題番号 P13：

「テニスの試合時における身体活動量と持久力テストの関係性について」

○川上諒（大阪体育大学スポーツ局），今西平（大阪体育大学大学院），

丸谷賢弘（大阪体育大学大学院），宮地弘太郎（大阪体育大学），梅林薫（大阪体育大学）

14：24－14：27 演題番号 P14：

「朝食摂取状況と試合時における血糖値の変動との関連性の検討」

○黒田裕太（北翔大学）

14：27－14：45 ポスター閲覧・質疑応答

特別講演1 司会：道上静香（滋賀大学）

中央棟2階 Z201・202 教室

14：55－15：55 堀内 昌一 氏『国内国際大会の必要性について』  
（亜細亜大学 法学部教授・テニス部総監督）

ディスカッション 司会：道上静香（滋賀大学）

15：55－16：25 『今後の大学テニスのあり方について』

堀内 昌一 氏（亜細亜大学 法学部教授・テニス部総監督）

植田 実 氏（びわこ成蹊スポーツ大学コーチングコース教授）

（（公財）日本テニス協会常任理事）

フリーディスカッション

中央棟2階 Z201・202 教室

16：30－17：30

懇親会

中央棟4階食堂(Lake Crest)

17：30－19：00

2日目：6月2日（日曜日）

---

9：00－ 受付（学会大会・テニス大会）

中央棟2階エレベーター前

特別講演2 司会：植田実（びわこ成蹊スポーツ大学）

中央棟 Z201・202 教室

9：30－10：50 前原正浩 氏 『日本卓球協会のこれまでの取り組みについて』

（（公財）日本卓球協会 副会長）

（国際卓球連盟 副会長）

（（公財）日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー ディレクター）

ブレイクタイム

10：50－11：00 コーヒーブレイク

パネルディスカッション 司会：植田実（びわこ成蹊スポーツ大学）

11：00－12：30 『これからのコーチに求められるコーチングスキルについて』 中央棟 Z201・202 教室

【特別発言】

伊藤リナ 氏 『JOC ナショナルコーチアカデミーでのコーチの学び』

( (公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミーアシスタントディレクター)

**【パネラー】**

**前原正浩 氏**

( (公財) 日本卓球協会 副会長)

(国際卓球連盟 副会長)

( (公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー ディレクター)

**伊藤 リナ 氏**

( (公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミーアシスタントディレクター)

**ランチブレイク 総会**

12:30-14:00 ラunchブレイク & コーヒーブレイク

**一般研究発表 口頭発表③ 座長：平田大輔 (専修大学)**

**中央棟 2階 Z201・Z202 教室**

14:00-14:15 演題番号 O3-1:

「テニス中の事故に伴う法的責任と現場の対応」

○山本衛 (東京弁護士会), 発田志音 (慶應義塾大学法学部)

14:15-14:30 演題番号 O3-2:

「学校体育・部活動とテニスアカデミーのよりよいつながりを探して: アデレードの事例から学ぶ」

○箸本涼真 (金沢大学)

14:30-14:45 演題番号 O3-3:

「高校テニス選手の幼少期の過ごし方と保護者の関わり方の調査」

○松岡大介 (中京大学硬式庭球部)

14:45-15:00 演題番号 O3-4:

「学校教育における理想的な審判指導の在り方」

○発田志音 (慶應義塾大学)

**一般研究発表 口頭発表④ 座長：高橋仁大 (鹿屋体育大学)**

**中央棟 2階 Z201・Z202 教室**

15:05-15:20 演題番号 O4-1:

「ソフトテニスにおけるレシーバーの視覚探索と打球コースの予測に関する研究」

○松江拓 (鹿屋体育大学大学院), 前田明 (鹿屋体育大学)

15:20-15:35 演題番号 O4-2:

「テニスのゲームでのラリーにおけるグラウンドストロークの速度及び回転数

: 打球落下位置と打球場面に着目して」

○柏木涼吾 (鹿屋体育大学大学院), 村上俊祐 (鹿屋体育大学), 高橋仁大 (鹿屋体育大学)

15:35-15:50 演題番号 O4-3:

「テニスのサービスゲームを取るために重要なカウント: 世界ランキング1位の選手を対象として」

○板橋クリストファーマリオ（鹿屋体育大学大学院），村上俊祐（鹿屋体育大学），  
高橋仁大（鹿屋体育大学）

15：50－16：05 演題番号 O4-4：

「試合中の各種ショットの成功確率や失敗確率に対する認識と客観的事実との乖離に関する研究」

○岡洋一郎（荏原湘南スポーツセンター），古川雅一（東京大学大学院情報学環・学際情報学府）

テニス大会 進行：佐藤周平（仙台大学）

テニス大会会場

16：25－18：00

オンコート研究実践 進行：村田宗紀（鹿屋体育大学）

テニス大会会場

16：25－18：00

表彰式 司会：北村哲（びわこ成蹊スポーツ大学）

テニス大会会場

18：00－18：05 奨励賞・テニス大会入賞者の発表  
佐藤雅幸（テニス学会会長）

閉会式

テニス大会会場

18：05－18：10

# 特別講演1

6月1日(土) 14:55-16:25 中央棟 Z201・202 教室

司会：道上静香 (滋賀大学)

講師：堀内 昌一 氏

## 『国内国際大会の必要性について：選手に夢を、日本テニスに希望の道筋を』

初めて観た田園コロシアムでのジャパンオープン。タナーのサービスの痕がわらじのように長く大きかったこと。バラズッチのフットワークでのスライディングの長いこと。レンドルのバックハンドトップスピンの音と凄さ。焦げ臭い匂い。それらは驚きの連続です。と共に「俺のテニスはテニスなの？」と考えるほどの衝撃を受けました。しかし、打法にとどまらず、戦術やフットワーク、息遣いから間の取り方は「世界基準や基本」とは何かを学ぶきっかけになったことは確かですライブは最高なイメージトレーニングです。

さて、そんな感激を若い頃から間近で味わえたら、さらに出場できたら選手はどれほど成長できるのでしょうか？ 指導者はどれだけ次の指導方法を学べるのでしょうか？学校やクラブや協会はどんなプログラムを産みださなくてはならないのでしょうか？もし世界中の知らない人、知らないテニスや戦術と混じり合えば、世界の基本や基準を目の当たりにしたら、我々は進化を今まで以上に余儀なくされるでしょう。わくわくしますね。 そうライブに勝るものないのです。世界に出て行く前に、世界を招いていけば、選手に限らず関係者全員が大きな財産を手に入れることはできるのです。

今回紹介するのは13年前に創った亜細亜大学男子国際フューチャーズ、8年前につくった亜細亜大学女子国際サーキットをもとに、国内で開催されている国際大会を主な対象として様々なデータを交えながら、日本での国際大会を開催する意義と成果を検証します。

### 講演者プロフィール

堀内 昌一 氏

#### 経歴

日本体育大学大学院修了 (コーチ学)

#### 戦績

1983年 関東学生テニストーナメントシングルス優勝

1983年 ユニバーシアード(カナダ大会)日本代表選手 シングルス出場

1985年 全日本ランキング シングルス5位・ダブルス1位

全日本オープンランキング (JOP) シングルス17位・ダブルス13位

#### 指導実績

1987~89年 ワールドユースカップ日本代表監督

ウインブルドンジュニア等ヨーロッパ遠征日本代表監督

1999年 ユニバーシアードスペイン大会日本代表監督

全日本大学王座決定試合 男子2回/女子3回 優勝 等



## 特別講演2

6月2日（日）9：30－10：50 中央棟 Z201・202 教室

司会：植田 実（びわこ成蹊スポーツ大学）

講師：前原 正浩 氏



### 『日本卓球協会のこれまでの取り組みについて』

日本卓球協会は、2001年から既存のナショナルチーム、ジュニアナショナルチームに加え、小学生のナショナルチームを発足させ、初期の段階から、世界を見据えた競技者の育成に取り組んできています。

この講演では、競技者育成システムを中心に日本卓球協会がこれまで行ってきたケーススタディを活用した指導方法、国際大会でのリスクマネジメント、ロンドンオリンピック・リオオリンピックを経て学んだ経験から、東京オリンピックに対してどのように備えるかなど、スライドならびに映像を活用しながらの講演となります。

### 【講演者プロフィール】

前原 正浩 氏

（公財）日本卓球協会 副会長

国際卓球連盟 副会長

（公財）日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー ディレクター

1981年全日本卓球選手権大会シングルス・ダブルスチャンピオン

1988年ソウル、1996年アトランタ、2000年シドニーオリンピック日本代表監督

## パネルディスカッション

6月2日(日) 11:00-12:30 中央棟 Z201・202 教室

司会：植田 実 (びわこ成蹊スポーツ大学)

### 『これからのコーチに求められるコーチングスキルについて』

昨年の第30回大会でのパネルディスカッションでは、『目指すべき良い指導とは?』というテーマで、テニススクール、ジュニア選手、大学生、プロ選手と様々な指導の立場から目指すべき良い指導について議論しました。アスリートの競技力向上においてコーチの存在は大きく、特に最新のスポーツ科学の導入、競技に対する専門知識、対戦相手の分析、戦術・戦略アドバイス、メンタルケア等、コーチの役割は幅広い知識が必要になってきます。2008年にJOCが国際競技力を踏まえたプロフェッショナルなコーチを育成・養成するシンクタンクとして発足したのが「ナショナルコーチアカデミー」です。この10年間、コーチに求められるものが変わってきました。このパネルディスカッションでは、伊藤氏の特別発言(下記)を受け、アスリートが求めるもの、社会が求めるもの、またテニスコーチに求められる特有のもの等、日本が世界で躍進し続ける競技力になるために「変わるべきもの」「変わってはいけないもの」を探っていければと思います。

#### 【特別発言】

伊藤 リナ 氏 (公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミーアシスタントディレクター  
『JOC ナショナルコーチアカデミーでのコーチの学び』

「JOC ナショナルコーチアカデミー」とは、日本オリンピック委員会が2008年に開設したナショナルチームに関わる指導者を対象とした指導者養成事業であり、2019年3月までに457名(外国籍コーチ53名含む)のコーチが本アカデミーを受講・修了され、オリンピックなどの国際大会等でコーチングをしている。本講演では、本アカデミーの概要(コンセプト、カリキュラム内容、受講者層)及び成果と課題を紹介するとともに、参加したトップコーチがどのような学びを得て、指導現場で活用しているかについて報告する。また、同アカデミーの約10年を振り返る中で、アカデミー自体の内容や方法等で変わったもの、変わらなければならないもの、変わってはいけないものについて説明するとともに、今後コーチに必要なものについて述べる。



#### 【特別発言者プロフィール】

##### 現職

- ・ JOC ナショナルコーチアカデミー事業 アシスタントディレクター
- ・ 中央学院大学法学部非常勤講師

## 過去

日刊スポーツ新聞社編集局取材記者、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科教員等を経て現職。

### パネラー：

前原 正浩 氏

(公財) 日本卓球協会 副会長

国際卓球連盟 副会長

(公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー ディレクター)



伊藤 リナ 氏

(公財) 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミーアシスタントディレクター)

## 司会

植田 実 氏

びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部コーチングコース教授

(公財) 日本テニス協会常任理事

